

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：11101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24700777

研究課題名(和文) 世代間支援における夫方と妻方のバランスと子世代の夫妻関係に関する日韓比較

研究課題名(英文) A Comparative Study on Characteristic of Intergenerational Support and Conjugal Relationship between Children's generation in Japan and Korea

研究代表者

李 秀眞 (Lee, Sujin)

弘前大学・教育学部・准教授

研究者番号：30588926

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本と韓国の世代間支援と子世代夫婦の認識をEASS_2006およびインタビュー調査のデータを用いて分析した。第1に、日本の男性は、自分の親に経済的支援を多く行っているほど夫自身の結婚満足度は低いが、韓国においては夫の親へ経済的支援が多いほど夫の結婚満足度は増加していた。第2に、インタビュー調査から世代間支援に対して妻がどのように認識しているのかが分かってきた。すなわち、妻たちは、世代間支援に対して、夫側親への支援を妻側親への支援より優先することなく、夫側への支援をめぐって夫と対立する様子もなかったが、相手を認めて、自分の欲求も認めてもらうという戦略をとっているような様子が伺えた。

研究成果の概要(英文)：This study was to analyzed intergenerational support and recognition of children's generation in Japan and Korea. The data was obtained from EASS_2006 (East Asia Social Survey). The responses were gathered from married people and they have one parent at least their own parent and spouse parent respectively. Also, I was interviewing for the 30's married women. The results of the study are as follows. First, when the levels of financial support to husband parent are low, marital satisfaction of the Japanese men are biggest among others. Additionally, Korean men's marital satisfaction is parallel to their financial support level for their own parents. Second, the wives did not want to support the wife side than husband side parent. There was no conflict surrounding intergenerational support. By accepting the needs of her husband, her needs will be accepted. I think this is the strategy of the wives.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：世代間支援 夫婦関係 日韓比較

1. 研究開始当初の背景

(1) 長くなった親世代と子世代の

共存期間と世代間相互支援関係

日本と韓国の平均寿命は、それぞれ男性は78.7歳、75.1歳、女性は85.7歳、81.8歳(2005年基準)であり(人間開発報告書, 2008) 70年代と比べると10年以上平均寿命が延びている。平均寿命の延びは、親世代と子世代が同じ時代を生きる期間が長くなったことを意味する。二世帯が共存する期間の延長は、世代間関係において様々な側面で変化をもたらしている。子世代が親世代を扶養するという規範は残っているものの、子世代からの一方的な支援は親世代の生活満足度に負の影響を与える(Kim & Kim, 2000)。健康で経済力もある親世代は、子世代へ経済的支援をしたがる傾向もある。実際、20~59歳の既婚者4,624人を対象とした日本大学人口研究所の調査では、約6割がこの1年間で自分や配偶者の親から経済的に支援してもらったことがあると回答している(毎日新聞, 2008年3月18日)。

(2) 世代間支援における双系化と

夫方と妻方間格差

従来、世代間支援のやり取りは、夫側親との関係で強く見られた傾向であった。支援收受者が主に夫側親であることを背景に、支援提供者の主体になる嫁のストレスをテーマにする研究が多数みられる(e.g. Jang et al, 2009)。しかし、近年には、既婚娘とその親との関係が密接になってきている。居住地域においても夫側親より妻側親に近接する傾向がみられ、また、育児支援を受けている場合、主な担い手も妻方親になっている(家計経済研究所, 2009)。これらのように、世代間支援関係は、夫方親への支援のみならず、既婚娘とその親の間でも頻繁に行われている。

2. 研究の目的

本研究は、世代間支援における夫方と妻方のアンバランスが、子世代の夫妻関係にどのような影響を及ぼしているのかを、日本と韓国の比較研究によって明らかにすることを目的としている。世代間支援バランスは、子世代から、夫方親へと妻方親への支援が同等であること、親世代から、夫方親からと妻方親からの支援が同等であることで測定する。国際比較を目的として実施された量的データによる分析と、インタビュー調査を並行して行う。インタビュー調査によって、量的データ分析からは得られにくい、世代間支援のアンバランスにおける夫妻間の認識差、それに影響を与える社会文化的要因を探索することができる。

3. 研究の方法

(1) 世代間関係、世代間葛藤、夫妻間葛藤に関する文献レビューを行った。

(2) EASS2006 データ分析

東アジアの4カ国・地域(日本、韓国、中国、台湾)を対象としたEASS2006(East Asia Social Survey)データをもとに、世代間支援のアンバランスを明らかにした。さらに、世代間支援のアンバランスと子世代の夫妻関係との関係性を検討した。

(3) インタビュー項目の適正性の検討

作成したインタビュー項目を用いて、日本と韓国において予備的にインタビューを行った。その過程を経て、調査目的に適合かつ、調査協力者を十分に配慮できる、もっとも適切な質問内容、質問文を作成した。

(4) インタビュー調査実施および分析

アンケート調査分析の結果を参考に、世代や経済状況、結婚年数、家族環境等が異なる妻を対象にインタビュー調査を実施した。

4. 研究成果

(1) データ分析から得られた知見

世代間支援実態

子世代から親世代への支援頻度は、子世代から夫側親への支援、子世代から妻側親への支援ともに日本より韓国の方が多いことが確認できた。これらの状況は、経済的支援だけでなく、日常的支援においても同様の傾向が見られた。

夫側親との支援関係

夫側親からの支援と子世代からの支援の関係をみたところ、日本では夫側親からの経済的支援および日常的支援が多いほど、子世代からの支援も多くなる傾向がみられた。一方、韓国においては、親世代からの経済的支援と子世代からの支援は比例関係におらず、親からの支援をまったくない場合に、子世代からの支援頻度が高く、日本とは異なる傾向がみられた。

妻側親との支援関係

妻側親からの支援と子世代からの支援の関係をみたところ、妻側親からの支援が多いほど、子世代からの支援も多くなる傾向がみられた。これらの傾向は日本と韓国同様にみられる傾向であった。さらに、妻側親からの日常的支援は夫側親のそれよりはるかに高く、それに対する子世代からの支援も高い傾向がみられた。

親への支援と夫婦の認識

日本の男性は、自分の親に経済的支援を行っているほど夫自身が感じる結婚満足度は低い。韓国においては、夫の親への経済的支援が多いほど夫が認識する結婚満足度は増加することが確認できたが、男性と女性で同様にみられる傾向であった。

一方、国・性別にかかわらず、夫側親からの支援、妻側親からの支援は、子世代の夫婦関係満足度とは関係がみられなかった。本研究では、夫婦関係満足度への影響要因を探る中で、親世代への支援に対する規範

意識と支援実態の相互作用は考慮にいれていないが、これらの二つの関係は、夫婦関係満足度に深くかかわると考えられる。これらは今後の検討課題としたい。

(2) インタビュー調査から得られた知見

育児支援をめぐる世代別認識

既婚子をもつ親の立場、共働きしながら子育てをしている若い世代の母親の立場から、世代間支援に対する認識を確認した。その結果、既婚子をもつ親の語りから、孫の誕生とともに孫への支出が増えたことが伺えた。共働きで二人の子育て中の30代の母親は、両家の親からの普段の育児支援を受けているという。ただ、夫側の親からの育児支援は多くないが、子育て費用に代わる経済的支援はもらっている様子が伺えた。一方、親からの経済的・育児支援に対して既婚子世代からの経済的支援はほとんど行っていなかった。

二つのケースから、親子間世代間支援が、3世代間関係にまで拡大していることが確認された。

世帯間支援実態と妻の認識

世代間支援に関しての支援実態とそれに対する妻の認識を探索するために、世代や経済状況、結婚年数、家族環境等が異なる妻10人を対象とするインタビュー調査を実施した。インタビューに応じた対象者の年齢は30代(30代半ば~30代後半)で、就業状態は仕事をしていない人を対象にしたが、そのうち一人は育児休業中であった。

分析結果、妻たちは世代間支援に様々な戦略を立てていることが浮かび上がった。

その1として、「折り合いをつけるタイプ」という様子が伺えた。夫側親への支援に対して、夫の意見を尊重することで、自分の親への支援に対しても夫と衝突がないようにしたいということだった。具体的に、Aさんは、夫は長男ではなく夫側親の扶養の責任が自分たちにあるわけではないが、経済的支援も、住まいのことも面倒みたがるので、それ

には妻も反対しないという。その理由として、自分の親へも同じことをやりたいからだと言った。

その2として、「折衷タイプ」という様子が伺えた。Bさんは、経済的支援については、夫側親と自分の親へは同じように金額を決めているが、直接訪問したり、実家で寝泊まりしたりする回数は夫側の親の方が多いというような形をとっていた。具体的に、結婚前に、両家の親への支援の範囲および金額等を決めていたという。だが、夫側の親へは直接訪問する機会が3週間に1回、すくなくとも月1回はあるといふ。負担にはなるが、夫側の親の年齢が自分の親より高齢であることもあるし、子どもとして同然のことだといふ認識をもっていた。また、Cさんの場合、基本的には親の扶養に関して取り決めがあるわけではないが、嫁としての役割には最善を尽くしたいと思っていたといふ。彼女が思う嫁の役割は何かを尋ねると、「夫側親と一緒に住まなければならない状況になると、そうするしかない」と思ったといふ。さらに、そうすることが子どもとして義務でもあると思っていると言った。夫側親は、同じ敷地内にあるマンションに住み、何かある時だけではなく、日常的に出入りしている様子であった。一方、妻方親（インタビュー対象者本人の親）については、親に何かあったとしても同居しながらの扶養ということは考えていないと言ったのが印象的であった。ただ、妻側親とは近居の形をとっていて、訪問したりする機会は、夫側親へ訪問頻度よりは少ないが、より密接な関係を保っている様子が伺えた。

その3として、「育児媒介タイプ」という様子が見られた。Dさんは、第1子出産後も仕事を続けていたが、子育てのために自分のお母さんが仕事を辞めて、子育てを手伝ってくれたケースであった。それに対し

て謝礼を渡したといふ。ただ、お母さんが仕事をしていた時の稼ぎには至らなかったことが分かった。自分のお母さんに謝礼を渡すことに対して、夫も不満を述べることもなかったといふが、夫は、Dさんが結婚・出産後も仕事を続けることを勧めていたため、Dさんのお母さんからの育児支援はDさん夫婦にとってはありがたいものであったことが伝わってきた。

以上で、インタビューの結果を紹介したが、30代の妻たちは、世代間支援に対して、夫側親への支援を妻側親への支援より優先するという感覚ではないようにみえたが、真正面に「平等」ということを出すよりは、相手を認めて、自分の要求も認めてもらうという戦略をとっているような様子であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

李 秀眞 原家族との関係特性と夫婦関係—親世代への支援に対する規範意識および支援実態と夫婦関係満足度に注目して—, 日本家政学会家族関係学部会, 2012年10月27日~28日, 岡山大学, 日本

Sujin Lee, A Comparative Study on Characteristic of intergenerational Support and Conjugal Relationships between Children's generation in Japan and Korea, IFHE(International Federation for Home Economics)2012 World Conference, 2012年7月16日~21日, Melbourne, Australia

6. 研究組織

(1)研究代表者

李 秀眞 (LEE, Sujin)

弘前大学・教育学部・准教授

研究者番号: 30588926